

# 学習支援作業部会報告

岩本悠希 木村有里 熊谷直樹 小樽あすみ 仲野宏樹 西尾真弓 福地香代子  
安永啓司 吉田友紀 渡邊 聡 橋本創一 林安紀子

## I 学習支援について

学習支援作業部会では、まず、現行の教育課程が編成された当時の学習支援内容区分に関する記述を再考し、現在にも通用する以下の2点の特徴を改めて確認した。

### 1. 学習支援内容区分の2つの特徴

①学習支援内容区分の斬新な特徴の1つは、教育課程全体の特徴でもある**内容知と方法知**を対とする観点を支援内容区分内にも踏襲していることである。当時の資料において、学習支援の概念を「自立した生活に必要な基礎的、基本的な学力（内容知・方法知）を身につけるための支援」と定義し、その内容知と方法知の観点によって既存の教科学習に対する「**方法学習**」という新しい概念規定と構成を創造した。

教科学習が学習指導要領に定められた各教科の内容に準拠するとした上で、この方法学習を「主体的に生きるために、自分をよりよく理解し、自らものごとを解決したり意志決定したりする方法を身につけるための学習」と定義し、つまり「何を学ぶかではなく、どのように学ぶか」をテーマにして、当時の新たに創造したマルチ教科（「くらし」と「進路」）の構成要素を担う考え方の提案に導いた。したがって、本作業部会では、この方法学習における支援内容配列表の改訂が取り組みの柱になると判断した。

②2つ目の特徴は、当時の学習支援内容区分の支援内容配列表を担う方法学習支援内容配列表を作成する際に、その横軸（スコープ）の要素分類の検討において、1993年頃にWHOが提唱した**ライフスキル**の概念と構成要素が参考にされたことであった。これは、併せてWHOが提唱する10のライフスキルを互いに補完し合う5組のペアに組むことができるという考え方の内の3組を採用したものであった（表4のア・イ・ウ、図5）。

表4 WHOの提唱する10のライフスキル（5組のペア）

ア	意志決定スキル	問題解決スキル
イ	創造的思考	批判的思考
ウ	自己意識	共感性
エ	効果的コミュニケーションスキル	対人関係スキル
オ	情動への対処	ストレスへの対処

## Ⅱ 問題と研究の経緯

### 1. 主体的な学び

前述の2つの特徴を今日の教育的課題に置き換えれば、特別支援学校における「ICT活用」と「主体的・能動的な学修（アクティブ・ラーニング）」の具現化の取り組みと捉えることができる。

この点について、方法学習の当時の実践では、すでに校外学習における調べ学習の場面などで遅延されたビデオフィードバックの手法が試みられ、それが子どもの自尊感情を高めることに効果的であるという知見が報告されているが、同時に、当時の機器類ではその作業の煩雑さが推測され、期待される子ども自身による主体的な学びに導くのは容易ではなかったのではないかと推測された。しかし、今

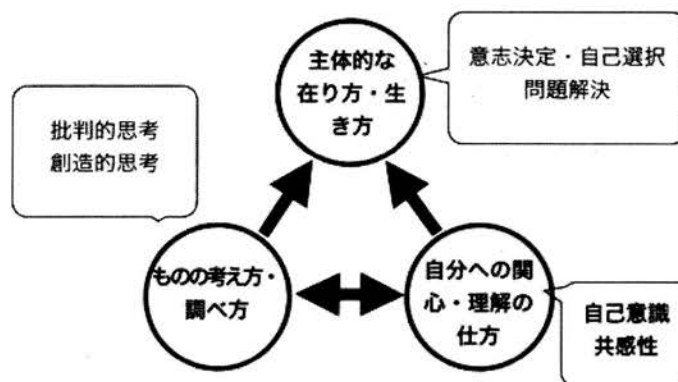


図5 方法学習の3要素とライフスキルの対応

日のICTの進歩は、その課題をかなり解決しており、現在こそその知見の再検証が期待できるのではないかと考えられた。

### 2. 協働的な学びに不可欠な共感性

この再考で、WHOのライフスキルにおいて自己意識と相互補完的ペアと見なされている共感性のスキルに再注目した。WHOでは、「共感性とは、自分がよく知らない状況に置かれている人の生き方であっても、それを心に描くことができる能力のことである。共感性があれば、自分とはまったく異なった人を理解し、受け入れることが可能となり、たとえば民族的あるいは文化的に異なった状況においても社会的相互関係を改善することができる。共感性をもつことによって、人は、世話や助け、あるいは寛容さを必要とする人々、たとえばエイズ患者や精神疾患をもつ人々のように、本来であれば支えを求める周囲の人からレッテルを貼られたり、排斥されたりしがちな人々に対して、勇気づける行為をとるようになる。」と説いている。

そこで、学校教育における個と集団の関係は古今を問わず重要なテーマとされるが、この機会に学校という協働的な学びにおける自己意識スキルの補完的關係としての「共感性」を検討する意義は大きいと考え、「自分への関心・理解の仕方」の要素欄の例示候補に入れて検討することにした。

### 3. 研究の経緯

今回の改訂のきっかけとなった実践の提案は、本校幼稚部のICTを活用した「思い出遊び『見て、見て！いいね！』」と題した授業であった。

幼稚部では2012年度から連絡帳の補完的な活用の観点からタブレット端末を用いており、

それぞれの幼児の日々の学校での生活や活動の様子の写真やビデオを撮り貯めて週末に各家庭に持ち帰らせていた。「思い出遊び」の授業では、そのタブレットに週末に家庭で撮られた幼児の様子が入って返ってくることを利用して、各幼児一人一人がそれらを互いに見せ合う時間を創造したものであった。

幼児たちは、この授業を通じて、今日のタブレット端末のカメラ機能やアルバム機能を使えば、まだ話しことばがなくても、早い時期から自分を意識したり、友達に自分をアピールしたり、また、友達の意思にも関心を持ったりすることができることを実証してみせた（本校紀要第58号参照）。

### Ⅲ 改訂された支援内容配列表

当作業部会では、以上の内容で検討した結果、当初の方法学習内容配列表では、中学部段階にある「自分の姿や行為を記録して振り返る。」という記述がそれらの内容を包括して表現するものと解釈できるが、上述の幼稚部の実践をもとに今日のICTの進歩を考慮すれば、その段階を待たずに小学部相当での実用が有効と考えて小学部高学年の段階に「写真やビデオを選んで自分の経験や行為を振り返る。」を表記することにした。また、今後は中学部や高等部でのさまざまな学習を能動的に進めるためにICT機器の活用が活発化するであろうと予測して高等部段階に「自分で撮った写真やビデオを用いて自らの意思や考えを発表する。」を表記するに至った。さらに、要素項目の欄に「共感性」の例示を加え、欄外にその注釈を付記した。

幼児期から青年期までの教育活動の中でこれらの内容を取り扱うことで、子ども一人一人の自己の発達やそれを理解する能力を促すことはもちろん、他者の意思や気持ちなどにも気づき、考える能力を育てることができると考えた。

### Ⅳ 改訂された支援内容による授業例

#### 1. 小学部低学年学級の誕生日会における活用例

〔授業の概要〕 その日誕生日を迎えた児童が、本人の幼い頃の写真を入れたタブレット端末を自ら操作してモニターに映し、友達に見せて語る本人が主役になる活動を設定した。

その活動では、本児がいくつかある写真から自分の家族全員が映った写真を選んで「これわかる人」と友達に問いかけた。すると、友達の1人が「はい」と手を上げてスクリーンの前に出てくると一人一人を指差して「お父さん、お母さん、お兄ちゃん、〇〇くん。」と言い当てた。本人は、「ピンポーン」と正解を告げて満足げにその友達を讃える様子がみられた。

ところで、このクラスでは、前年度までも同様に児童の誕生日を祝う活動は行われており、対象の児童の幼い頃の写真も準備されたが、これまでは、それらを教員がモニターに映し出して児童たちに語りかける形式のものであった。

今回の授業例は、それまでのものに比べて、児童たちが主体的に活動していたことが彼らの発言などからもよくわかった。そして、自らの幼い姿を振り返ることによって自分が家族から大切に育てられていることを感じるという本授業のねらいにも沿ったものであったことを、本児が選んだ画像などから推測できた。

## 2. 中学部の総合学習「東京探検」（調べ学習）における活用例

〔授業の概要〕海の中の生物を事前に調べて実際に水族館で確かめる活動計画の中で、各自の学習をまとめる過程として、見学に行く前で未学習段階の自らの言動をビデオで振り返る機会を設けた。その中のある生徒は、事前学習では生物の一部の画像を手がかりにその魚が何であるかを調べる学習に取り組んだが、その時点では思うような成果があげられず、ビデオでは元気がない姿に録画されていた。しかし、実際に水族館内でその魚がなんであったかを見つけて満足した後の上記の振り返り学習場面では、教員の促しで自ら事前学習時のビデオを再生し、苦笑いを浮かべながらも、その画面をよく注視していた。その直後に、教員がその魚の名前を尋ねると、生徒は元気な自信に満ちた声で正答し、さらに、未学習時の自分の姿を見た感想を聞くと「そんな1日だったなあ」という感想を述べた。

この授業で用いられたビデオフィードバックという技法は、録画後に直ぐに用いられるのが一般的だが、その場合、自分の未熟な姿は本人にとってネガティブな刺激になることが少なくない。その点、本事例のように適当なタイムラグを設けた使用法では、すでに習得した自分が以前の未熟な時の自分を見ることになるので、逆に自分の成長が実感できるポジティブな支援になる可能性を推論できる。彼の感想は、本授業において苦戦した時の自分をも含めて自らの学習の達成に満足しての一言のように聞こえた。

## 3. その他

平成26年度の本校研究協議会では、2クラスで公開授業を行った。共に、それぞれの子どもの自己意識や共感性の芽生えに働きかける試みであった。

## V まとめ

今回、学習支援作業部会で行った改訂作業を通して見えてきた興味深い教育的研究課題を以下に列挙した。今後、それらの課題がそれぞれに関連を持って今後の幼児児童生徒の各ステージにおける授業研究や事例研究と学部を超えた教育課程の研究によって相互補完的に明らかにされていくことに期待したい。

- ①主体的な学びにおけるICT活用の可能性
- ②自分を客観視する経験の有効活用
- ③言語を介しないイメージ共有の方法
- ④ビデオフィードバックの新たな使途

（文責：安永）

## 引用・参考文献

- ・川畑徹朗，西岡伸紀，高石昌弘，石川哲也・訳，WHO・編（1997）WHO・ライフスキル教育プログラム，大修館書店
- ・安永啓司，霜田浩信 他（2002）生徒の自己意識の形成を促すビデオフィードバック法の応用，日本特殊教育学会第40回大会発表論文集自主シンポジウム『教育実践科学』をめざして（3）—授業における生徒の自己評価— pp.139
- ・安永啓司（2015）自己への気づきや理解を促すタブレット端末活用術，特別支援教育研究 2015年2月号，東洋館出版社





# 学習支援 指導略案

学部：幼稚園  
場所：ひかり組教室

「ICTを活用した幼児期の自己意識や共感性の芽生えを促す遊びの授業」													
授業名	朝の集まり 「見て、見て！いいね！」	指導者	MT：安永啓司      ST：岡本有未 ST：亀田隼人 ST：小樽あすみ										
対象者	幼稚部   ひかり組   幼児   5名（男子1名、女子4名）												
設定理由	<div>□関連する支援内容配列表項目</div> <div>1）（既）自分の気持ちや思いを表現する（小学部低学年段階）</div> <div>2）（新）写真やビデオを選んで自らの経験や行為を振り返る（小学部高学年段階）</div> <div>3）（既）誉められたり認められたりする自分を嬉しく思う（小学部高学年段階）</div> <div>4）（新）要素の例示として「共感性」を加えたこと</div> <div>□関連する個別教育計画の目標</div> <div>「簡単な動作や写真などで意思を伝えることができる。」</div> <div>「身近な出来事を写真などを見て順序立てて話す。」など</div> <div>子どもの主体性を育むには、幼児期から自己主張や自己選択を促すことが必要であり、そのためには自己への気づきや理解を深めることが重要と考える。</div> <div>今日のICTの進歩により、幼児にも写真やビデオの再生操作を容易にし、自らを客観視したり振り返ったりすることが可能となった。また、集団の中では、友達への関心や理解と相まって自己意識や共感性スキルの芽生えを促すことが期待できる。</div>												
指導計画	<div>（全14回   本時：9時間目）</div> <div>1）日曜日の思い出自慢（6時間）</div> <div>2）冬休みの思い出自慢（2時間）</div> <div>3）友達の思い出をリクエスト（3時間）</div> <div>4）一年間の思い出を語ろう（3時間）</div>	本時の目標	<div>○自分の思い出を友達や先生が褒めてくれて嬉しく思う。</div> <div>○友達の思い出（経験したこと）に関心を持つ。</div>										
学習活動の展開	<table><tr><th>学 習 活 動</th><th>指 導 内 容 ・ 留 意 点</th></tr><tr><td><div>(1)</div><div>・朝の挨拶をしたり自分の名前に返事をしたりする。</div></td><td><div>・自分や友達の名前に関心を持つ。</div><div>・自分の名前の音や平仮名に関心を持つ。</div></td></tr><tr><td><div>(2)</div><div>・自分のタブレットの中の見せたい画像を見つける。</div></td><td><div>・見せたい画像を選ぶこと</div><div>・教員は閲覧中の注視や行動を観察する。</div></td></tr><tr><td><div>(3)</div><div>・一人ずつモニターに映して自分の思い出を発表する。</div></td><td><div>・自分で操作して選ぶこと</div><div>・教員は本人の意思を汲んで支援する。</div></td></tr><tr><td><div>(4)</div><div>・発表者が友達からのリクエストを受ける。</div></td><td><div>・友達の経験に興味を持つこと</div><div>・自分の経験を友達が気に入ってくれること</div></td></tr></table>			学 習 活 動	指 導 内 容 ・ 留 意 点	<div>(1)</div> <div>・朝の挨拶をしたり自分の名前に返事をしたりする。</div>	<div>・自分や友達の名前に関心を持つ。</div> <div>・自分の名前の音や平仮名に関心を持つ。</div>	<div>(2)</div> <div>・自分のタブレットの中の見せたい画像を見つける。</div>	<div>・見せたい画像を選ぶこと</div> <div>・教員は閲覧中の注視や行動を観察する。</div>	<div>(3)</div> <div>・一人ずつモニターに映して自分の思い出を発表する。</div>	<div>・自分で操作して選ぶこと</div> <div>・教員は本人の意思を汲んで支援する。</div>	<div>(4)</div> <div>・発表者が友達からのリクエストを受ける。</div>	<div>・友達の経験に興味を持つこと</div> <div>・自分の経験を友達が気に入ってくれること</div>
学 習 活 動	指 導 内 容 ・ 留 意 点												
<div>(1)</div> <div>・朝の挨拶をしたり自分の名前に返事をしたりする。</div>	<div>・自分や友達の名前に関心を持つ。</div> <div>・自分の名前の音や平仮名に関心を持つ。</div>												
<div>(2)</div> <div>・自分のタブレットの中の見せたい画像を見つける。</div>	<div>・見せたい画像を選ぶこと</div> <div>・教員は閲覧中の注視や行動を観察する。</div>												
<div>(3)</div> <div>・一人ずつモニターに映して自分の思い出を発表する。</div>	<div>・自分で操作して選ぶこと</div> <div>・教員は本人の意思を汲んで支援する。</div>												
<div>(4)</div> <div>・発表者が友達からのリクエストを受ける。</div>	<div>・友達の経験に興味を持つこと</div> <div>・自分の経験を友達が気に入ってくれること</div>												
評価	<div>○それぞれの幼児が自ら行動して参加していたか。</div> <div>○幼児間に自然な関わりが発生したり継続したりしたか。</div> <div>○教員の支援の役割が適切に行われていたか。</div>												





学習支援

## 幼稚部

### ひかり組「見て、見て！いいね！」

安永啓司

#### 関連する支援内容配列表項目

	自分への関心や理解の仕方 …自己意識、共感性	
小学部 (高)	写真やビデオを選んで自分の 行為や経験を振り返る。	

#### 「ICTを活用した幼児期の自己意識や共感性の芽生えを促す遊びの授業」

ICT活用のキーワード

- ・写真やビデオの一元化
- ・タブレット端末などの直感的操作  
→ 画像再生操作の容易さ(主体的・能動的学修)
- ・自己意識への視覚的アプローチ
- ・自身の客観視、記憶や想像の可視化

#### 本授業(本単元)の指導計画

①日曜日の思い出自慢

②冬休みの思い出自慢

③友達の思い出をリクエスト

④1年間の思い出を語ろう！

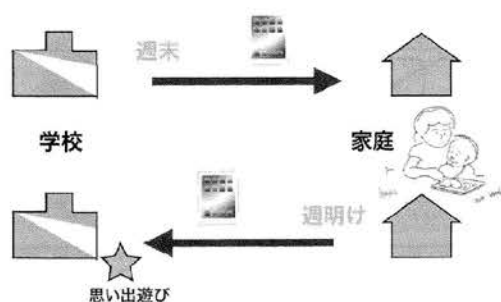
本時(1/3)

「連楽帳」※1)の仕組みをベースに休日の家庭での経験を学校で再現

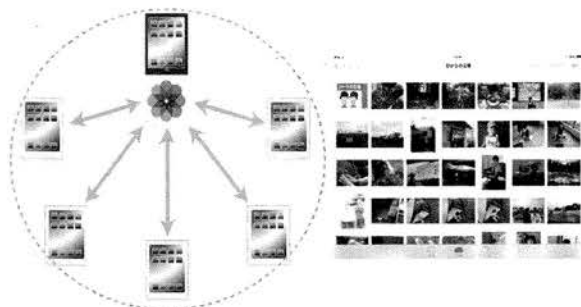
長期休業中の「ひかりの広場」※2)の利用を友達への関心の機会に

#### 1 本授業を支える保護者との協働の仕組み

##### ※1) 「連楽帳」



##### ※2) 簡易クラス内SNS「ひかりの広場」



#### 2 共感性(empathy)について

◎共感性とは:自分が知らない状況に置かれている人の意見や気持ち、立場、生き方であっても、それを心に描くことができる能力(方法学習内容配列表の注釈より)

◎一人一台のタブレット端末を持たせたことによって

- ・友達のタブレットの画像情報に関心を示す幼児
- ・「僕も乗りたい」や「〇〇くんはマークが好きだ」などの発言が聞かれるようになった。

◎AがB(友達)にリクエストを要求する行為の意味

- ・Bは、Aの思い出を覗くことができる。
- ・Aは、Bが自分の思い出の何に関心があるのかを知ることができる。

この部分は  
公開に適さないため  
掲載できません。

2013年度本校研究紀要「幼児期の自己意識と共感性を育む生活と遊びの研究:タブレット端末の連絡帳型活用法から生まれた新しい授業デザイン「思い出遊び」の実践をとおして」13-28, 2014-05参照



# 学習支援 指導略案

学部：小学部  
場所：空組教室

「ICTの活用で学び方が変わる -自己意識・自己理解を促す授業づくり-

授業名	学習発表会 「ぼくの好きなこと・とくいなこと」		指導者	MT：會澤 加奈子 ST：井上 剛				
対象者	小学部 空組 児童 1年1名、2年1名、3年1名（男子3名）							
設定理由	□関連する支援内容配列表項目							
	<table><tr><td></td><td>自分への関心や理解の仕方</td></tr><tr><td>小学部(高)</td><td>写真やビデオを選んで自らの経験や行為を振り返る 褒められたり認められたりする自分を嬉しく思う</td></tr></table>					自分への関心や理解の仕方	小学部(高)	写真やビデオを選んで自らの経験や行為を振り返る 褒められたり認められたりする自分を嬉しく思う
		自分への関心や理解の仕方						
	小学部(高)	写真やビデオを選んで自らの経験や行為を振り返る 褒められたり認められたりする自分を嬉しく思う						
	□関連する個別教育計画の目標							
「学校・家庭の限定された場面で、カードを用いたやりとりができる」など 空組は、コミュニケーションや対人関係に課題のある自閉スペクトラム症の児童が在籍する個別指導に特化した学級である。								
対象児には、絵カードやサイン、タブレット端末で身近な大人に要求を伝えることを指導してきた。これまで教員が児童の様子を録画し、活動後に鑑賞させる試みを行っていることから、児童は自分の姿や行為に興味をもつようになってきた。 このような実態から本題材では、①動画にて、これまでに音楽の授業で学習してきたことを振り返り、学習発表会の内容を選ぶこと、②録画された学習初期の自分の姿を、学習の節目において振り返ることを取り入れたい。 上記のICTの活用により、自ら自分の姿を肯定的にとらえる振り返りを行うことで、自己意識や自己理解が高まるものとする。								
指導計画	(全14回 本時：3時間目)		本時の目標	○自分や自分の行った活動を注目して見ることができる。 ○自分の好きな楽器や活動を選ぶことができる。				
	1) 昨年の学習発表会を振り返る（1時間） 2) 自分の経験を振り返り、好きな活動を選択する（2時間）：本時 3) 選択した活動を練習する（9時間） 4) 発表会で発表する（1時間） 5) 発表会の様子を振り返る（1時間）							
学習活動の展開	学 習 活 動		指 導 内 容 ・ 留 意 点					
	(1)	・学習発表会で発表する活動（ストレッチ・リトミック）をする。	・学習発表会の授業が始まることを理解する。					
	(2)	・これまで行ってきた合奏の様子を映像で見る。	・自分の姿を動画で振り返る。 ・教員は閲覧中の注視や行動を観察する。					
	(3)	・自分が好きな楽器を選ぶ。	・タブレット端末を自分で操作して選ぶ ・教員は本人の意思を汲んで支援する。					
	(4)	・選んだ楽器で合奏をする。	・選んだ楽器を実際に演奏することで自己意識や自己理解を高める。					
評価	○動画の中の自分に興味をもち、自分のこととして捉えることができたか。 ○やりたい活動を自ら選択し、選んだ活動に進んで取り組むことができたか。							





学習支援

## 小学部

### 空組「学習発表会（ぼくの好きなこと・とくいなこと）」 會澤加奈子

#### 関連する支援内容配列表項目

	自分への関心や理解の仕方 自己意識、自己理解	
小学部	○写真やビデオを選んで自らの経験や行為を振り返る ○褒められたり認められたりする自分を嬉しく思う	

#### ICTの活用で学び方が変わる ～自己意識・自己理解を促す授業づくり～

- ・学習発表会  
（既）教員が児童の得意な活動をピックアップして発表内容を決定  
（新）児童が自ら自分の姿を振り返り、発表内容を決定  
自分の姿を映像で振り返ることにより、「できた！」と自らの成長を感じる瞬間を多く経験することが可能になる。
- ・参加児童 3名（1～3年）  
障害種：ASD児3名  
MA1～1：8 IQ18～27  
主な伝達手段：絵カード、サイン、タブレット端末  
言葉でのやりとりは困難。視覚優位。

#### 本単元の指導計画

①「学習発表会」について知る

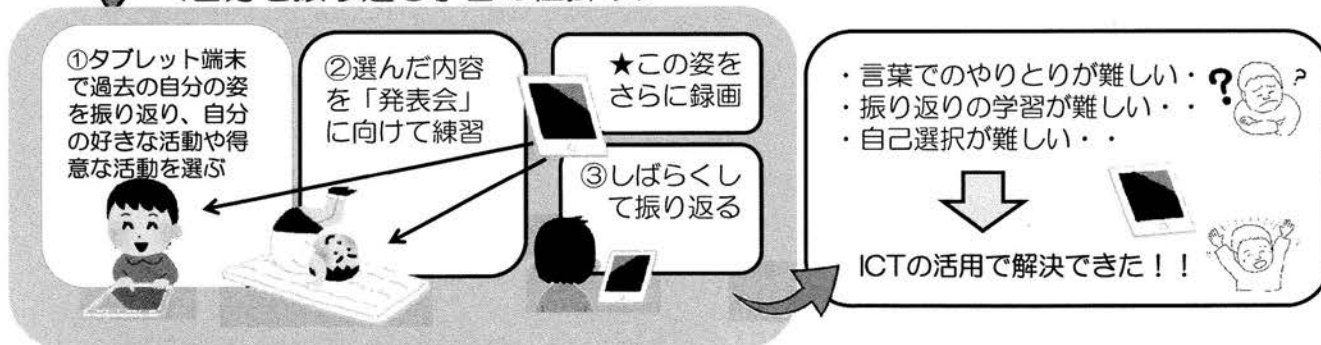
**本時** ②今まで学習してきた内容を振り返り、発表する学習活動を選択する

③発表会に向けて練習をする

④発表する⇔振り返る



#### <自分を振り返る学習の仕掛け>



#### <ICTを活用して自分を振り返ることで期待できること>

★自分が行った行動を可視化でき、振り返ることができる。  
⇒自己意識や自己理解が深まる。

★自分の好きな活動を自分で選ぶことができる。  
⇒学習意欲の向上を図る。

★友だちの姿を見ること、友だちと一緒に活動している自分の姿をみることができる。  
⇒共感性を育む。

★学習初期段階と学習後期段階の映像を見比べ、自分の変化をポジティブに捉える。⇒自尊心や自己肯定感を養う。

この部分は公開に適さないため掲載できません。

この部分は公開に適さないため掲載できません。

この部分は公開に適さないため掲載できません。

この部分は公開に適さないため掲載できません。